



旧吹田村クイズラリー

平成28年2月27日(土)、浜屋敷にて、特定非営利活動法人吹田歴史文化まちづくり協会主催、大阪大学協力のもと、クイズラリーが開催され、30名の小学生の親子が参加しました。



地元の子どもコンシェルジュの案内で浜屋敷周辺のまちなみと昔のスポットをめぐり、それぞれのスポットでクイズに答え、最後に浜屋敷でまち案内人から地域の歴史についてお話がありました。

(*コンシェルジュ:お世話係や案内人のこと) 子どもたちからは「この地域の歴史がまだまだたくさん残っていることを知れてよかった」という意見がありました。また保護者からは「浜屋敷の瓦が舗装に活用されていることを知らなかった」「普段何気なく通っている景色もゆっくり立ち止まると歴史が刻まれていることに気付いた」など、親子でこの地域の歴史を知ってもらえた企画となりました。「吹一小景観学習」に参加していた子どもたちが、親子で参加してくれるなど、今まで以上にこの地域の歴史に興味を持ってきてくれているのかなと感じています。



岡先生からまちなみづくりへのエールをいただき、市においてもガイドラインの策定に向けて今後取り組みを進めていくこととし、座談会を締めくくりました。ご参加いただきました皆様まことにありがとうございました。

各班からの報告を受け、岡先生から総括をいただきました。『旧吹田村のまちの良さは、街区と道の構成がベースになっていること。これは今の時代では絶対に作れないし再生もできないまちの魅力。まちなみは市が強制力を持ってつくるものでない。建物は住民のものなので住む人が率先し、みんなが話し合っただけでつくっていくことが重要。業者等に強制力に対するのでなく、外の人にこのまちの考え方を伝える、このまちのルールを伝えるという取り組みが大事。ガイドラインはそのツールになる。』

このように通りの幅や塀・垣・建物等の高さから、視野の大半を通りの両側の「敷際」によって占められており、板塀・土塀、生垣、蔵の壁、門などの歴史的な敷際要素がまちなみを形づくっていることがわかりました。このような背景のもと、大阪大学や関西大学と連携し、まちなみを考えたり楽しんだりする取り組みを行ってききましたので、その内容をお知らせします。

意見交換

学生の感想や提案を受けて3班に分かれて意見交換を行いました。地元の人はいいところを見つけてもらったと、気づかないところを見つけてくれたなどの感想も聞かれました。



▶旧吹田村に予算や重点的な取り組みをしたり、発言力のある人が声をあげる、行政が連携して開発をコントロールするなど、ガイドラインの運用についてもたくさん意見があげられました。



▶道の色が異なっているのが気になる、歴史的な施設の案内板が見やすい位置にないなどの意見もあげられました。

ガイドラインの策定に向けて

まちなみづくりを進めるうえで、吹田市からの提案として、建築物の新築時などに、住民や建築事業者がそれぞれの立場から景観づくりに取り組んでいくことが重要で、関係者が話し合っていくための道具として、まちなみのデザインや素材等を解説するガイドライン(まちなみづくりの指針・詳しくは次ページを参照)をつくる考え方を説明し、皆さんの意見をとりに来て、まとめていきたいという趣旨を説明しました。これを受けて班ごとに検討を行いました。各班の検討結果は次のような内容です。

①1班「建物は個人財産であり、まちなみを保全するのは難しいが、このまちにふさわしい残し方を考えることが重要。ガイドラインは、地元の人が知らないことも改めて知ることができてよい。」

②2班「ガイドラインを用いた取り組みでは、壁の色を整えることはまずできるのでは?また、無電柱化してほしい、若い人が住んでほしい、そのためにはまちの機能も考えていく必要がある。」

③3班「ガイドラインは、中が見えない塀をつくるのかセットバック



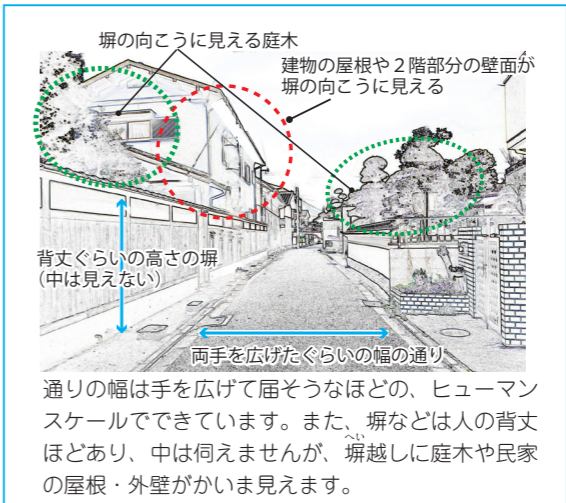
▶舟板を再利用した板塀など「実は」的な話題や地蔵など失われた資源もまちづくりに生かせるのではないかなど意見が出されました。

最後に...

このように通りの幅や塀・垣・建物等の高さから、視野の大半を通りの両側の「敷際」によって占められており、板塀・土塀、生垣、蔵の壁、門などの歴史的な敷際要素がまちなみを形づくっていることがわかりました。このような背景のもと、大阪大学や関西大学と連携し、まちなみを考えたり楽しんだりする取り組みを行ってききましたので、その内容をお知らせします。

まちを見てみると...

内本町・南高浜町あたりのまちなみの特徴は、浜屋敷などの旧庄屋敷敷の大きな民家のほか、中小規模の民家であつても板塀や漆喰塀、生垣などで家の周りを囲い、所々に和の趣を有する門や蔵が残り、歴史を伝えるまちなみになっています。



通りの幅は手を広げて届そうほどの、ヒューマンスケールでできています。また、塀などは人の背丈ほどあり、中は見えませんが、塀越しに庭木や民家の屋根・外壁がはい見えます。

まちづくり座談会

平成28年3月2日(水)午後7時〜9時、浜屋敷で、関西大学環境都市工学部建築学科の岡絵理子准教授と学生12名をゲストに、地域の住民の皆さんにご参加いただき、「まちづくり座談会」を開催しました。



▶岡絵理子准教授

旧西尾家住宅を活用したまちづくりなどを研究されている岡先生から「旧吹田村のまちは4回栄えたまち。1つめには貴族の別荘のまちとして栄え、2つめには江戸時代に水運の発展により栄え、3つめにはビール工場ができて旧村の周りに長屋ができ、工場で働く人がたくさん住んだ時代があり、4つめには戦後1960〜70年代に商店街が発展し、大いにまちが栄えた時代があった。」という話題提供があり、学生たちはこの4つの発展期を念頭において行ったまちあるきの成果を発表してくれました。



▶いつもと違う学生さんの視点にみなさん興味津津で聞き入っていました。

①3回生中心グループ 「学生がみた旧吹田村のまちなみ」

阪急吹田〜吹田南口〜メロロード吹田のルートを学生と岡先生の9人で歩きました。「西尾家住宅など歴史の風景と新しい風景が交じるまち。路地など生活空間にあふれていて焼杉の壁や塀など伝統的な建築物もまちなみに溶け込んでいる。住む人みんながまちの良さを徐々に浸透させ、まちなみに対して少しの配慮ができるようになればもっとまちなみはよくなると思う。」という発表でした。



②大学院生グループ 「吹田のおもしろ5選」

旧吹田のまちで面白いものを集め、まちのみなさんに新たな観点を伝えられれば、との思いを込めて発表してくれました。「昔からの道に現代の人の生活が加わって景観ができています。焼杉の壁がたくさんあるのが吹田らしさの一つ。吹田には昼と夜で表情が異なりそれぞれ違った面白い景観になっている。」という感想とまちなみをよくする提案をシミュレーションにして示してくれました。



景観を学ぶ 『吹一小』景観学習

平成27年6月、吹田第一小学校で、大阪大学の協力を得て、三年生のみなさんと、地域の歴史的環境に気付くキッカケづくりにまちあるきをしました。

浜屋敷、旧西尾家住宅、高浜神社など、地域の歴史を代表する施設のまちあるき後、探したひみつや気づいたことなどでカルタづくりを行いました。授業参観日にカルタの発表と、ひみつに関するクイズを出し合っていました。

子どもたちにとっては普段は気づきにくいまちの歴史的環境の存在とその特徴を知り、さらに友達や保護者に伝える経験ができました。また、保護者の皆さんにとっても、長年住んでいても知らなかった内容もあり、歴史の地域理解につなげることができました。



吹田 歴史のまちなみづくり通信



内本町2丁目のまちなみ

Topics

まちづくり座談会

『吹一小』景観学習

旧吹田村クイズラリー

吹田の歴史のまちなみについて

吹田市南部に位置する南高浜町・内本町から西の庄町界隈は古来、吹田の渡しを経て、旧亀岡街道・旧吹田街道を中心に在郷町として広がり、そして、栄えた吹田発祥の地です。

今でも浜屋敷や旧西尾家住宅のほか、かやぶき屋根や板塀・漆喰塀などを有する民家、寺社仏閣、道標などが点々と残り、歴史を感じさせるまちなみが残っています。

吹田市では、このような長い時をかけて培ってきたまちなみはとても大切なものであり、大切に守り、育て、次の時代につないでいきたいと考えています。

この通信は、みなさんとともにまちなみづくりを進めるために、様々な取り組みなどを紹介するものです。

いいでしょ このまち SUITA-SCAPE21

『まちなみガイドライン』の作成をめざして

内本町・南高浜町界隈は、通りに面する建物や敷際に用いられている素材やデザイン・色づかいが歴史のまちなみをつくりだし、特徴づけています。通りに面する建物や塀・垣などの歴史的意匠・素材等を大切にするとともに、新しいものをつくる時にも歴史的まちなみに調和するようにしていくことが大切です。このような考え方から、まちなみづくりの方向を以下のように考えています。

○基本目標と基本方針案

『吹田の歴史を伝える在郷町の通りの景観をまもり、そだて、つくり、次代につなぎます』

- ・歴史を伝える通りの景観をまもり、育てる
- ・伝統的意匠・素材を今日にいかし、次代につなぐ
- ・次代に誇れるまちなみをつくる

○『まちなみガイドライン』イメージ

ガイドラインはまちなみを特徴づけている以下の「要素」について写真や図を用いて解説します。

敷 際	塀や生垣、門、格子戸など昔ながらのしつらえで敷際をつくったり、歴史のまちなみに調和する現代的デザインなどを示します。
建物の外壁色	古いまちなみの色使いを解説し、調和する素材の色や伝統色などを示します。
植 栽	生垣や庭木などのみどりの要素について示します。
屋外設備	配管・設備機器など屋外に設置される設備も通りから見えてしまうことが多いので、まちなみに馴染ませる手法などを示します。
駐 車 場	通りに面して設置する駐車場のあしらいもまちなみには多大な影響を及ぼすため、工夫の仕方などを示します。
屋外広告物	看板・サインなどの屋外広告物は目立つ必要がありますが、まちなみに調和しながら役割を果たすデザイン等について示します。
建物の配置	建物の配置によって敷際の作られ方が変わります。このため、建物の配置についても考え方を示します。
建物の屋根	塀の向こうに見える屋根の形や色、素材などを示します。
建物の形・デザイン	伝統的なデザインや、それらに調和する現代的デザインなどを示します。
工 作 物	鉄塔やアンテナなどの工作物を設ける時にまちなみに調和させる方法などを示します。
自動販売機	あとと便利な自動販売機ですが、派手な色や広告の文字などが浮き立って見えることが多いため、馴染ませ方を示します。

たとえば…

《敷 際》

- 歴史を感じさせる重厚さのある敷際にする、あるいは伝統的な意匠をとりいれましょう。

例) 板塀・築地塀にする。

- ・木や石、レンガ等の伝統的素材を用いる。
- ・格子戸・犬矢来などを取り入れる。
- ・生垣の場合は和風の趣がある樹種にする。



瓦をのせた板塀や犬矢来のある通り（内本町）



石材を使った敷際（吹田市内）

○今後の進め方

当地区の歴史的まちなみの保全に向けて、地域の方と共に検討を進めながら継続して取り組んでいくことが必要であると考えています。地域の方へまちなみに関する意識啓発や情報発信などを行うだけでなく、地域外の方にも取り組みをPRしていくとともに、今後もガイドラインの策定に向け、またさらに踏み込んだルールの必要性や建物等所有者への支援などの方策の必要性についても意見交換を進めていきたいと考えています。

発行：吹田市 都市計画部 都市計画室 平成28年（2016年）4月

住所 〒564-8550 吹田市泉町1丁目3番40号
 電話 06-6384-1968（直通）
 FAX 06-6368-9901
 メールアドレス tosiseib@city.suita.osaka.jp
 ホームページ http://www.city.suita.osaka.jp/



感想をお寄せください。

（この冊子は500部作成し、1部あたり70円です。）